

オンラインと対面を組み合わせた 初年次教育の取り組み

澤田忠幸

(石川県立大学 教養教育センター)





石川県公立大学法人

石川県立大学

Ishikawa Prefectural University

生物資源環境学部 3学科(入学定員120名) 2020年度は131名

附属農場

実習棟

所在地
石川県野々市市

生物資源工学研究所

学生駐車場

生産科学科

食品科学科

大学院

環境科学科

石川県かほく市の
石川県立看護大学
(看護学科80名)とは
同一法人

初年次教育 (First-Year Experiences)

中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」(2008年12月)が初出

また、大学入学後の初年度における教育については、初年次教育、導入教育、リメディアル教育等の様々な概念が混在している。高大接続の観点から、高等学校教育の質の確保・向上とアドミッション・ポリシーに基づく大学入学者選抜の確立の上に、その意義をもう一度見直すならば、初年次教育は、高等学校で身に付けるべき基礎学力の単なる補習とは一線を画すべきであり、高等学校教育から大学における学修に移行するに当たって、大学における本格的な学修への導入、より能動的な学修に必要な方法の習得等を目的とするものとして捉えるべきである。

こうした大学初年次教育の展開・実践は、高等学校教育の成果を大学入学者選抜後の大学教育へとつなぐ、高大接続の観点から極めて重要な役割を果たすものであり、その質的転換を断行するには、高等学校教育、大学教育の新しい姿を確立するととともに、これらの教育で育成すべき力を円滑に接続するための研究開発が必要である。

高大接続答申(2014, p21)

初年次教育の位置づけ(濱名, 2007)

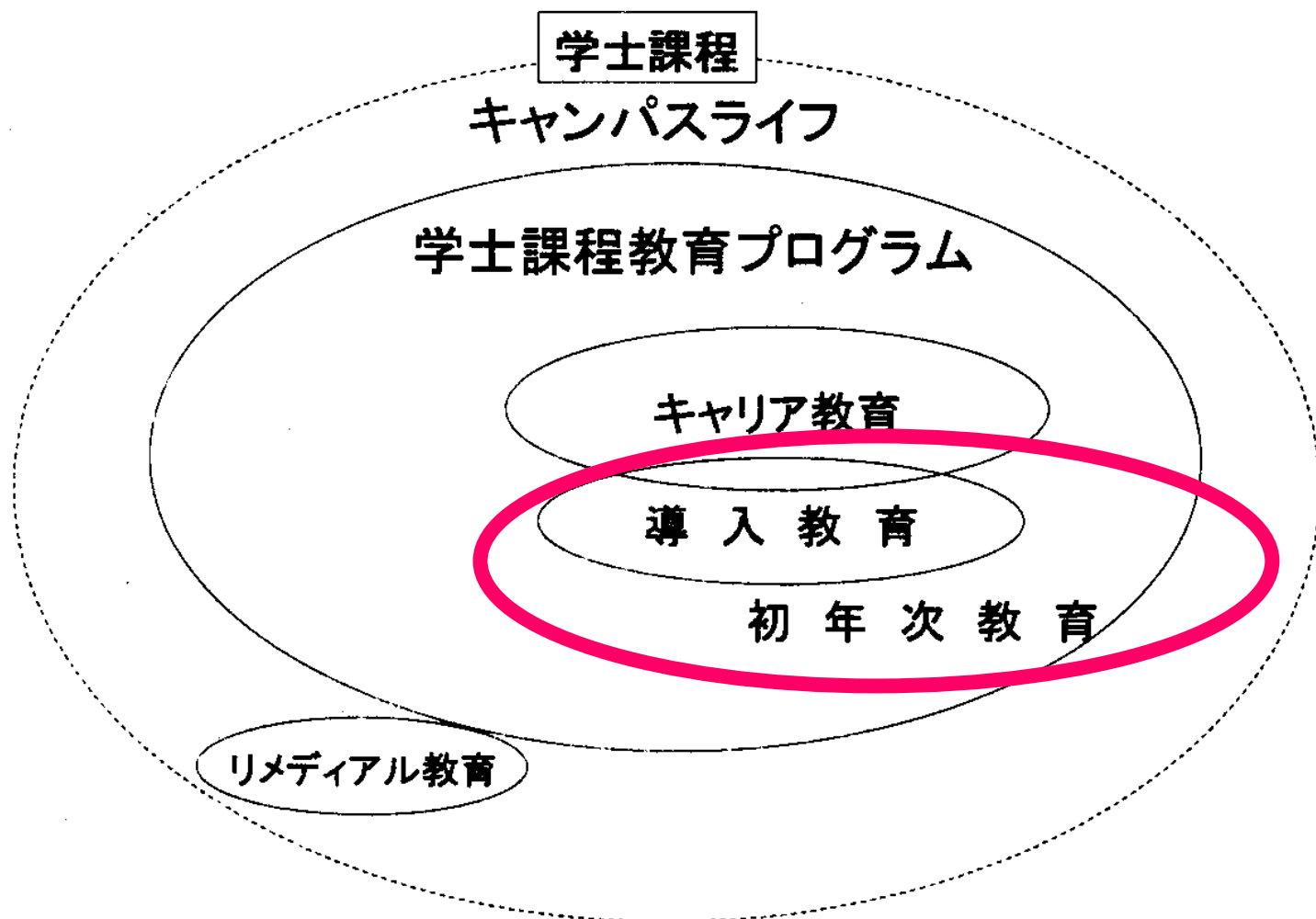


図1. 初年次教育・導入教育・キャリア教育・リメディアル教育との関係 (概念図)

石川県立大学の初年次教育

生物資源環境学社会生活論(社会生活論)

1年前期必修(30時間1単位/専門共通科目)

授業のねらい

1. **居場所**作り・学科を越えた仲間作り

2. 「生徒」から「大学生」になる

協同学習を通じた**汎用的技能**の育成

3. 県立大学での学びの世界を知る

キャリアデザインの視点

どういう形で授業を実施するか？

授業形式	オンライン授業		対面授業
	オンディマンド	オンタイム	
適した学習活動	教材の視聴（テキスト型）	ディスカッション プレゼンテーション	実験・実習
	教材の視聴（ビデオ型）		
	課題の提出		
可能な学習行動	見る・聴く・読む・書く	+話す	+実践する
時間の制約	なし	あり	あり
場所の制約	なし	なし	あり
コミュニケーションの タイミング	タイムラグ	リアルタイム	リアルタイム

Moodle

Zoom

社会生活論授業予定 2020

担当

澤田忠幸・新村知子

	日程	講義内容	講義室	主担当	備考
1	5月15日	オリエンテーション:到達目標と評価方法	オンライン	澤田	
2	5月22日	高校と大学の違い	オンライン	澤田	
3	5月29日	心と身体の健康 & ガクトラボ(未定)	オンライン	未定	ガクトラボ(石原)、*保健室
中止		田植えにチャレンジ	農場	福岡*	田植えの場合、13時から16時10分 (担当:福岡信之)
4	6月5日	①図書情報センターの活用法 ②大学生に求められるレポート最初の一步!	オンライン	①図書情報センター* ②長野**	*新村 **環境科学科
延期		学外活動報告、先輩から学ぶ(ゲストスピーカー)	未定	新村	(未定)トビタテ卒業生、県立大卒業生
5	6月12日	ライティング講座1:要約と論理展開・日本語表現	K219/K126/E403	澤田	対面授業(1限目)
6	6月19日	ライティング講座2:きちんと考える方法(critical thinking)	オンライン	澤田	
7	6月26日	ライティング講座3:レポートの書き方<基礎編> 学術レポートの体裁と引用の難しさ	K219/K126/E403	長野・澤田	対面授業(1限目)
8	7月3日	研究室レポート(オンライン作成)の準備説明	オンライン	長野・新村・澤田	3人で同一教室から学科別にZoom配信
9	7月10日	レポートライティングのまとめと課題	K219/K126/E403	澤田	対面授業(1限目)
中止		テーマ『発酵で健康』	K219	小泉武夫	東京農業大学名誉教授・本学客員教授
10	7月17日	研究室レポート 学科別発表会	オンライン	各学科教員	テクニカルサポート可能な有志教員に依頼
11	7月31日	レポート・ピアレビュー	K219/K126/E403	澤田	対面授業(1限目)
12	8月7日	学習キャリア検討会(前期のふり返し)課題提出期限	オンライン	澤田・新村	簡易版ラーニングポートフォリオの作成
13	8月14日~28日	学期末試験(PROGの実施)	オンライン		この授業での成果を測定!

5月：まずはZoomとMoodleを使って さりげない情緒的作戦？も

- 授業資料と授業のURLをMoodleにアップ
- 授業はZoomを用いて同期型で実施（時間割どおり）
双方向性を確保するため，チャットや投票機能を活用
グループワークは，ブレイクアウト機能を活用
（時間を取って，おしゃべりタイムも設定）
- 授業のワークを通じた振り返りは，Moodleに提出
→コメントをまとめたものをMoodleと授業で公開

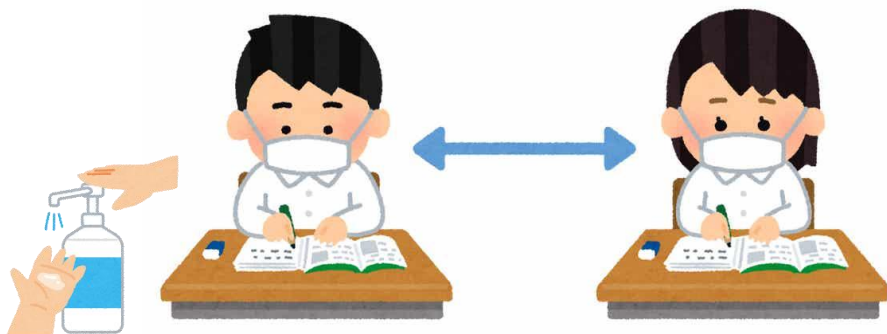


学生のプライバシーに配慮しつつ，仮想背景等で，キャンパスの中にいる雰囲気伝える

6月から直面した新たな課題 ：対面授業一部再開の中で

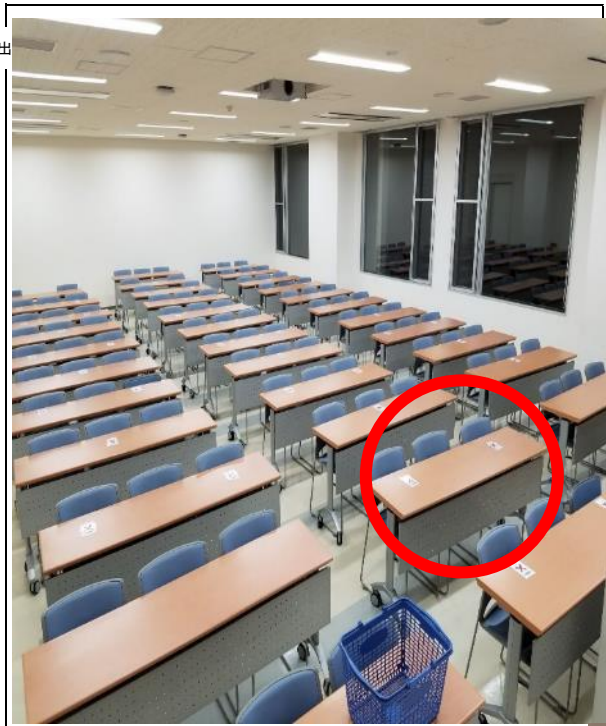


オンライン授業の
メリットとデメリット



手指消毒の徹底
ソーシャルディスタンス
をとった対面授業の
メリットとデメリット

生産科学科



出入口

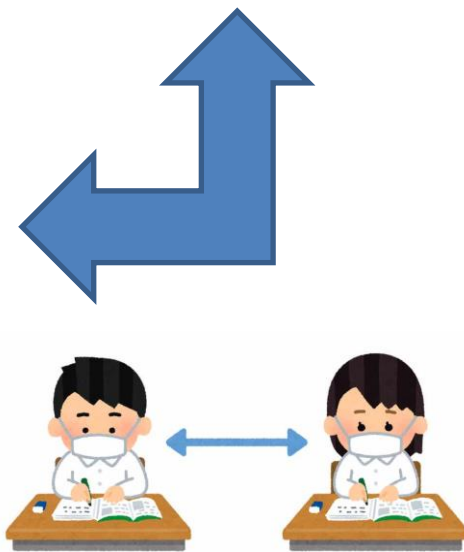
食品科学科



出入口

大人数での授業ができない！

環境科学科



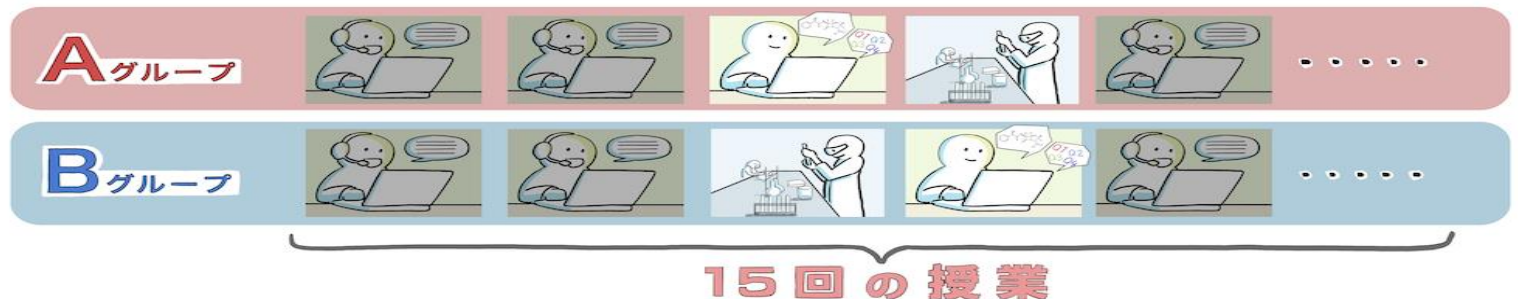
正直「後付けハイブリッド型」授業

- ① ブレンド型：対面とオンラインを、
教育効果を考えて組み合わせる

e.g. 反転授業



- ② 分散型：同じ回異なる内容の授業を
対面とオンラインで行う



- ③ ハイフレックス型：同じ内容の
授業を対面とオンラインで行う



大事にしたこと

1. 対面による交流（コミュニティ作り）の機会を大切にする
 - ・ 1年生の登校チャンスを確保する
 - ・ 対面で意味があるものを対面で行う
2. 学生の意思を尊重して学びを保証する
3. 学生の情報環境・端末の所有状況に配慮しつつ、失敗を恐れず、オンラインツールを使って学びを広げる

生産科学科

出入口



×	×	×	×	×	×	×	×	×
32	23	14 × 5	36	27 × 18	9	40 × 31	22	13 × 4
35	26 × 17	8	39 × 30	21	12 × 3	34	25 × 16	7
38 × 29	20	11 × 2	33	24 × 15	6	37 × 28	19	10 × 1

教卓



食品科学科

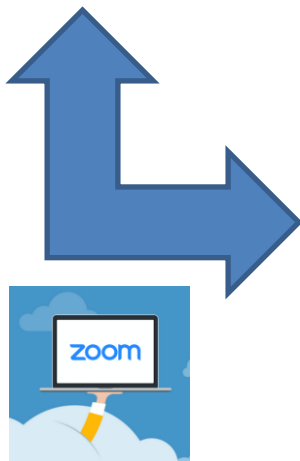


15 ×	×	×	×	30 ×	×	×	×	×	×
×	14 ×	×	×	×	29 ×	×	×	×	×
×	12 ×	×	×	×	28 ×	×	43	×	×
11 ×	×	×	×	26 ×	×	×	42	×	×
×	10 ×	×	25 ×	×	×	×	×	×	40
×	×	9	×	24 ×	×	×	×	39 ×	×
×	8 ×	×	×	×	23 ×	×	38 ×	×	×
7 ×	×	×	×	×	22 ×	×	×	37 ×	×
×	6 ×	×	×	×	21 ×	×	×	×	36
×	×	5	×	20 ×	×	×	×	35 ×	×
×	4 ×	×	19 ×	×	×	×	34 ×	×	×
3 ×	×	×	×	18 ×	×	×	×	33 ×	×
×	2 ×	×	×	×	17 ×	×	×	×	32
×	×	1	×	×	×	16	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

教卓

環境科学科

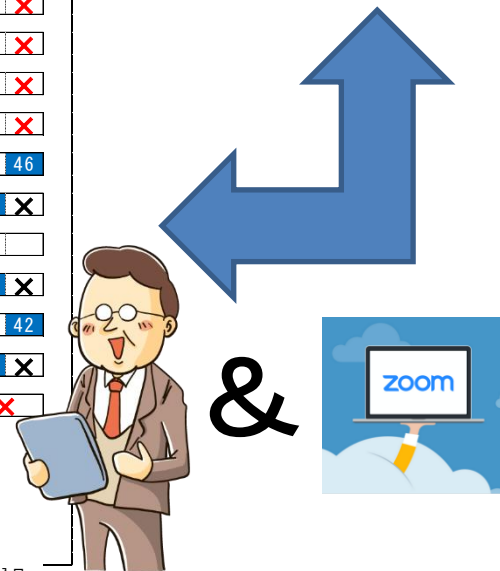
出入口



×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	10 ×	×	×	×	20	×	30 ×	×	×	×	40	×	×	×
9 ×	×	×	×	19 ×	×	29 ×	×	×	×	39 ×	×	×	×	×
×	8 ×	×	18 ×	×	×	×	28 ×	×	38 ×	×	×	×	×	×
×	×	7	×	17 ×	×	×	×	27	×	37 ×	×	×	×	46
×	6 ×	×	×	×	16	×	26 ×	×	×	×	36	×	45 ×	×
5 ×	×	×	×	15 ×	×	25 ×	×	×	×	35 ×	×	44 ×	×	×
×	4 ×	×	14 ×	×	×	×	24 ×	×	34 ×	×	×	×	43 ×	×
×	×	3	×	13 ×	×	×	×	23	×	33 ×	×	×	×	42
×	2 ×	×	×	×	12	×	22 ×	×	×	×	32	×	41 ×	×
1 ×	×	×	×	11 ×	×	21 ×	×	×	×	31 ×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

教卓

出入口



出入口

出入口

第8回（7月3日4限目）研究室レポートオリエンテーション《Zoom授業》

前半はいつものように3学科合同で行います。下記のURLから入ってください。

トピック: 社会生活論

<https://zoom.us/j/98023951240?pwd=MIhEZEEdITzBydTlyRnBvMHVSWGNRQT09>

ミーティングID: 980 2395 1240

パスワード: 978148

【事前に作業しておいてください】Zoomへのサインイン

PDFの資料を読んで、7月3日のZoom授業の前までに、Zoomにサインインできるように、事前に登録作業をしておいてください。

こちらも参考にしてください。 <https://zoom-japan.net/manual/host/get-free-zoom-account/>
Zoomのインターネットのサイトで登録を済ませてから、PCのZoomにサインインしてもOKです。

Zoomのアプリでサインインした状態で、7月3日の授業に参加してください。

研究室レポート概要（7月3日更新）

7月3日（金）に説明する研究室レポートの概要です。授業の前に目を通しておいてください。

研究室レポートの対象となる研究室リスト

研究室レポート Zoom、PowerPointの使い方など

学科ごとに分かれてのブレイクアウトでのワーク内容

後半の学科ごとに分かれた後に、研究室レポートの作業を行う段取りを示しています。

生産科学科 PowerPoint

環境科学科 PowerPoint

食品科学科 PowerPoint

PowerPointのリンクが開けなかった人は、長野（chono@ishikawa-pu.ac.jp）までメールしてください。

本日の出席カード

今日は以下の内容をオンラインで提出してください。本日23:59がメド切です！

1. 担当する研究室名
2. メンバー全員の氏名（自分自身を含む）
3. 各役割の担当者の氏名
 - ・ リーダー（スケジュール管理、Zoomスケジュール）
 - ・ Zoom、PowerPoint 操作担当
 - ・ 教員との連絡担当

研究室レポート2020
オンラインを活用して
教員にインタビューし
プレゼンテーションを行う

第10回（7月17日4限目）研究室レポート学科別発表会《Zoom授業》

研究室レポート グループメンバー表・発表順

出席カード（生産科学科）

ファイル提出とします。

出席カード（環境科学科）

ファイル提出とします。

出席カード（食品科学科）

ファイル提出とします。

生産科学科 研究室レポート ベストグループ

学生から投票

本日の発表で、最も良かったと思われるグループを2つ選んでください。

環境科学科 研究室レポート ベストグループ

学生から投票

本日の発表で、最も良かったと思われるグループを2つ選んでください。

食品科学科 研究室レポート ベストグループ

学生から投票

本日の発表で、最も良かったと思われるグループ2つを選んで下さい。

投票により選ばれた優秀グループ

研究室レポート 生産発表会 動画（7月17日録画）

研究室レポート 環境発表会 動画（7月17日録画）

研究室レポート 食品発表会 動画（7月17日録画）

第11回（7月31日1限目）レポートピアレビュー《対面授業》

研究室発表会の様子



進行について

- ・発表順を確認してください
- ・発表者自身でPowerPointを画面共有して発表してください。発表時はビデオオン音声オンにしてください
- ・画面共有できないときは司会者が代わって操作します
- ・発表時間は3分です。ベルを鳴らします
- ・発表は録画します
- ・全グループの発表後、よいグループを投票、よい点のコメントを提出してもらいますので、他のグループの発表をよく聴いてメモをとってください



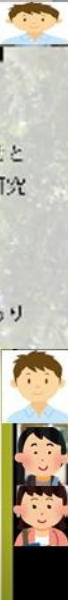
1. 先生の紹介

大井徹

- ・野生動物の社会・生活と環境の関係について研究
- ・大規模野生動物が対象
- ・東南アジアなど
- 海外での調査経験もあり



研究室で活躍する大井徹先生にインタビュー！
この研究室を盛り上げる
・先輩が忙しなくても自分たちの発表を準備し、発表の準備を進めることで、新しい発見や学びを得ることができる
・興味分野が広くたくさんある
・自分たちで考え、学ぶことができる。学びの機会が豊富である
・先生たちとの交流が楽しい
・先生たちとの交流が楽しい
・先生たちとの交流が楽しい
・先生たちとの交流が楽しい



事前・事後調査の実施

《事後調査》

1. 汎用的技能の習得度は影響を受けたか？
2. 適応感*, 学習動機と汎用的技能の習得度との関連は？

*適応感: 個人が当該の環境を自分と合った居場所と認識する
感覚あるいはフィット感, 心地よさの感覚

前期終了時の適応感と学習動機

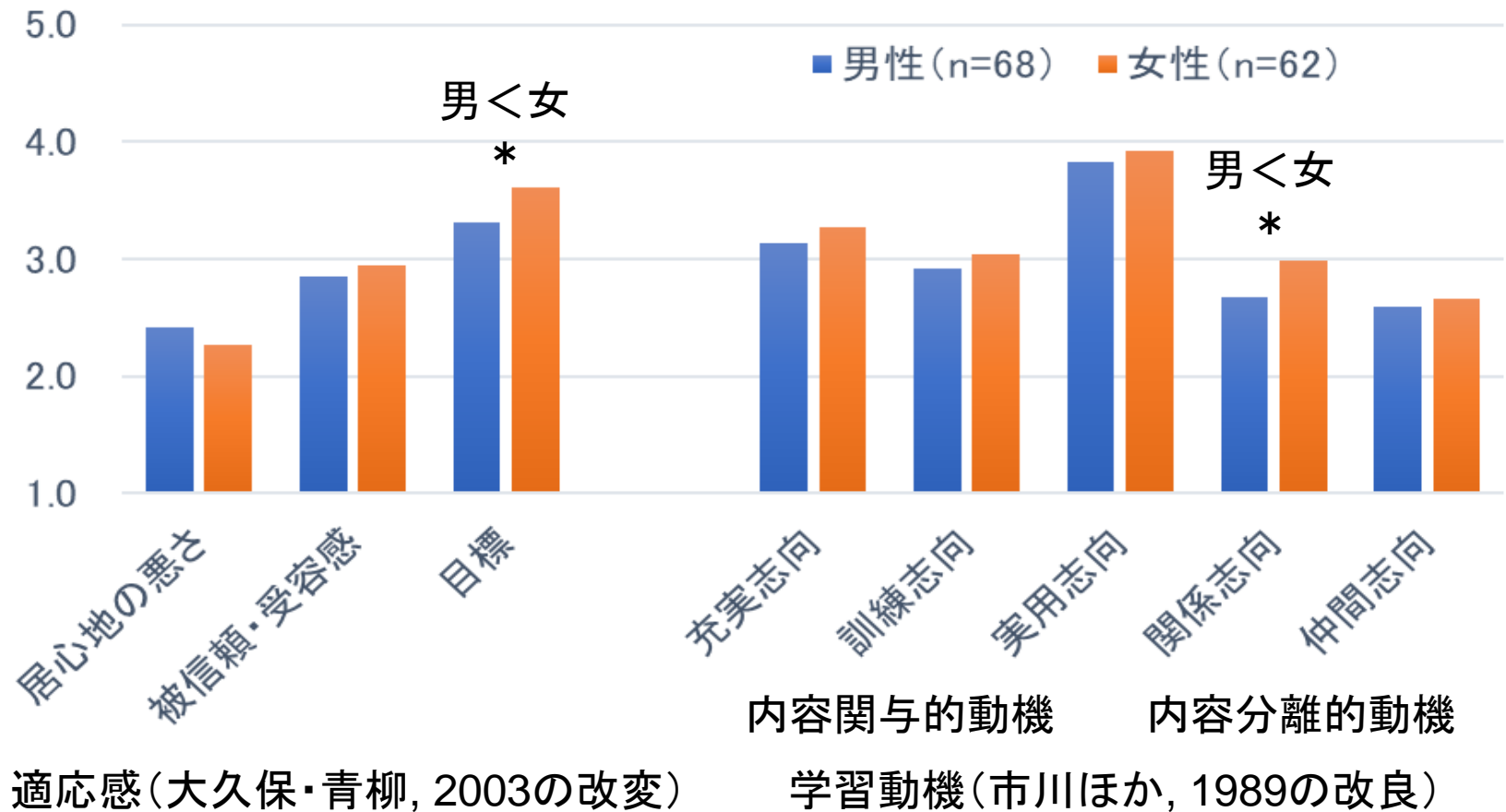


図1 適応感および学習動機づけの男女差

注) 適応感、学習動機の各因子に学科差は見られなかった。

適応感，学習動機と汎用的技能

表1 適応感，学習動機づけと汎用的技能（PROG）との関連（ $n=129$ ）

	リテラシー		コンピテンシー		
	総合	総合	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力
居心地の悪さの感	.049	-.241 **	-.274 **	-.263 **	-.084
被信頼・受容感	-.009	.337 ***	.334 ***	.342 ***	.179 *
目標	.060	.167	.150	.256 **	.095
充実志向	.002	.291 ***	.230 **	.379 ***	.081
訓練志向	-.080	.054	.041	.085	.023
実用志向	-.052	.129	.105	.145	.078
関係志向	-.102	-.234 **	-.196 *	-.272 **	-.139
仲間志向	-.083	.218*	.238 **	.280 **	-.015

注) *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, # $p < .10$

石川県立大学

ご清聴ありがとうございました